

2020(R2)シカ年度 エゾシカ個体数調整実施計画案(遺産地域内)

※日没時銃猟及び捕獲個体の残置について詳細は、資料4「北海道指定管理鳥獣捕獲等事業実施計画」(素案)(以下、実施計画という。)で説明。

A. 知床岬地区

第3期計画の管理目標:知床岬地区先端部(モニタリングユニット M00、図 3-2-1)3.23 km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を 5~10 頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・2020(R2)シカ年度*は、2007(H19)シカ年度より14シーズン目の捕獲。仕切柵整備からは10シーズン目にあたる。低コストでシカの低密度状態を維持する手法の開発検討が課題。
- ・2019(R1)シカ年度の個体数調整は、越冬期(2月26-29日)にヘリコプターを移動手段として実施したくくりわなと仕切柵を用いた囲いわな、並びに海明け後(5月21日)に忍び猟を実施。捕獲数は計3頭(くくりわな2頭、囲いわな0頭、忍び猟1頭)に留まる。
- ・2019(R1)シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は、9.0-15.2頭/km²(M00:52-3=49頭、先端旋回:32-3=29頭)となり、第3期計画の管理目標は未達成。
- ・仕切柵内を対象とした捕獲作業では、個体数の削減効果の高いメス成獣を効率的に捕獲できない状況へと変化。カウント調査時の仕切柵内のシカの性構成は、オス成獣に偏っている(32頭のシカのうち、メス成獣3頭、オス成獣29頭)。また仕切柵内で確認されるシカの大半は、仕切り柵外から柵内へ通ってきているような状況と推察される。同地区の目標・捕獲方針(捕獲の対象エリアを拡大させるのかについて)を確認する必要がある。

2. 方針(案)

- ・厳冬期のくくりわなによる捕獲を実施。捕獲数を増やすため、設置基数を60基程度まで増やし、6名程度で4日間実施する。状況に応じて誘引餌を使用する。くくりわなは仕切柵の末端や切れ目についたシカ道に設置、1チームは仕切柵から離れた場所(メガネ岩・赤岩方面)まで移動し、シカ道にくくりわなを設置。

※厳冬期の捕獲は今回に限り休止し、新たな手法検討に注力することも要検討。

- ・文吉湾側の仕切柵末端の袋小路部(文吉コラル)、自動捕獲装置を利用した囲いわな式捕獲を厳冬期の現地滞在期間中に実施。餌に餌付させるための工夫が必要。
- ・流水開け後の銃猟(待ち伏せ狙撃・忍び猟)を5月~6月に4回程度実施し、メス成獣を効率的に捕獲する。1回あたり作業員は3名程度(射手1~2名)、日帰りを想定。

※実施計画が策定された際は、捕獲個体の残置実施を想定。

※捕獲目標頭数合計：20頭

航空カウント調査の見落とし率が低いと想定される同地区では、自然増加率を0.2とし、第3期の計画期間が終了する2021(R3)シカ年度末までの2年間で目標を達成できるよう、捕獲目標頭数を設定。

2020 (R2) 航空カウント調査 58 頭→捕獲頭数 20 頭→2021 (R3) 航空カウント調査 45 頭→捕獲頭数 20 頭→2021 (R3) 捕獲後推定値 25 頭(生息密度 7.73 頭)を想定。

3. 捕獲事業内容(案) (知床岬地区)

①. 流水期 へり捕獲 (小規模隊 4日間) 1回 (2019 (R1) シカ年度に近いパターン)

- 期間： 2～3月に1回(航空カウント調査終了後)。4日間。
- 人員規模： 6名程度
- 実施方法： くくりわな 60基程度、仕切柵を改修した囲いわな 1基
- 個別の課題：くくりわなの凍結融解による作動不良の防止、囲いわなのヘイキューブにシカを餌付かせる手法
- 捕獲目標頭数：10頭

②. 海明け後 船捕獲 (小規模隊 日帰り) (2018 (H30) シカ年度に近いパターン)

- 期間： 5月～6月に4回程度、日帰り。
- 人員規模： 3名程度(射手1～2名)
- 実施方法： 待ち伏せ狙撃・忍び猟
- 個別の課題：登山者や漁業者に対する周知や安全対策、ヒグマ対策、捕獲能力の高いライフル射手の確保
- 捕獲目標頭数：10頭

4. 2020 シカ年度以降の検討課題

- ・生息が確認できているエゾシカのオスの割合が大きく、メスを効率的に捕獲できない。

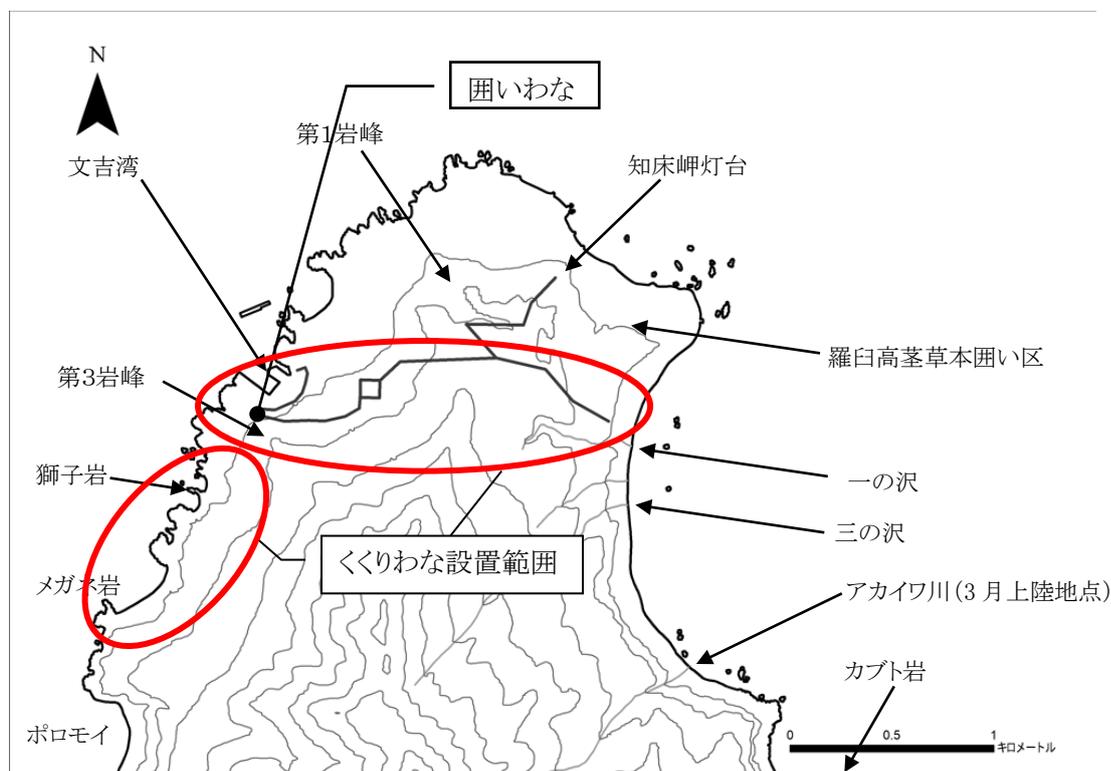


図 3-2-1. 知床岬先端部の地図(実線が捕獲補助用の仕切柵).

B. ルサー相泊地区

第3期計画の管理目標:ルサー相泊地区(モニタリングユニットR13、図8-1-2)の24.68km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を 5頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・2019 (R1) シカ年度は、くくりわな (4年目) で21頭、流し猟式SS (7年目) で17頭、待ち伏せ狙撃 (初) で4頭、合計42頭を捕獲。
- ・ルサー相泊道道沿いなど、低標高帯に出現するシカが少なくなる厳冬期 (1月下旬から3月上旬) は、既存手法による捕獲が適さない時期。中標高域で捕獲事業を展開するには、段丘上にあがる必要があるが、作業道がなく、事業のための移動路が確保できない。
- ・昨シカ年度に試みた崩浜南での待ち伏せ式狙撃は、捕獲に適した場所が少ない。捕獲頭数を増やすには、同じ範囲で捕獲を繰り返す必要があり、捕獲効率の低下を招く可能性がある。
- ・2019 (R1) シカ年度の航空カウント調査によるエゾシカ発見密度は5.19頭/km²。第3期管理目標の5頭/km²以下は未達成 (R13= 航空カウント調査区U12南部 + U13 + U13s = 24.68km²、128頭)。

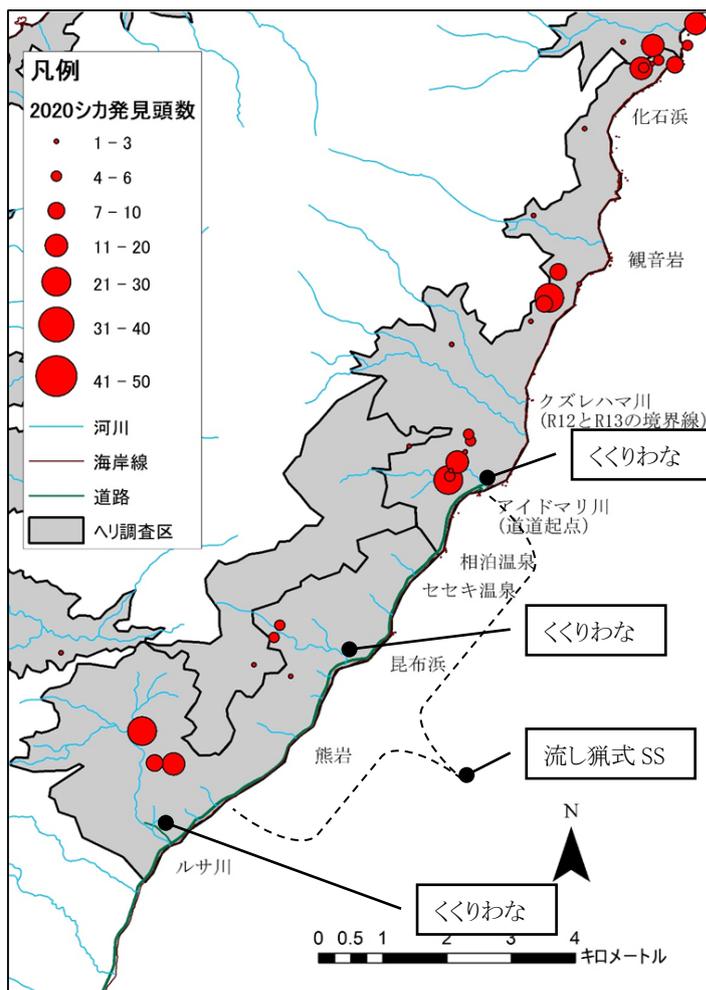


図3-2-2. 2020年航空カウント調査時のエゾシカ発見位置と2019(R1)シカ年度のエゾシカ捕獲実施箇所.

2. 方針(案)

- ・わな捕獲はくくりわなの運用に重点を置く。12月下旬からルサ川-カモイウンベ川間でくくりわなを運用、捕獲期間と捕獲範囲を拡大する。
- ・銃猟は流し猟式シャープシューティングと待ち伏せ式狙撃を実施し、メス成獣の効率的な捕獲を目指す。流し猟式シャープシューティングは3～4月に実施する（捕獲効率の低下する2月は実施しない）。待ち伏せ式狙撃は、捕獲期間を拡大する。

※実施計画が策定された際は、流し猟式シャープシューティングにおいて日没時銃猟実施を想定。

※捕獲目標頭数合計：55頭

2015(H27)シカ年度以降の航空カウント調査とライトセンサス結果、捕獲頭数実績を基に捕獲目標頭数合計を設定。捕獲目標頭数は2019(R1)捕獲頭数実績の3割増しで設定。

3. 捕獲事業内容(案)

①. くくりわな

- 期間： 12月下旬～ わな設置、餌づけ及び捕獲開始。
- 実施候補地： 相泊～カモイウンベ川間の崩浜南部、昆布浜付近、ルサ川左岸周辺(いずれも再設置)。
- 個別の課題： 警戒心の高まりに配慮した配置、部外者による攪乱・事故の防止、道道通行止時の対応。
- 捕獲目標頭数：20頭（2019(R1)シカ年度くくりわな捕獲実績と同等）。

②. 待ち伏せ式狙撃

- 期間： 4月下旬～6月下旬(週2回程度、計15回程度の捕獲)
- 実施候補地： 崩浜(アイトマリ川～クズレハマ川)
- 個別の課題： 実施時間、捕獲の実施間隔および人員数の検討、希少猛禽類関係の事前調整。
- 捕獲目標頭数：15頭（2019(R1)シカ年度待ち伏せ式狙撃捕獲実績等を参考）

③. 流し猟式SS

- 期間： 3月上旬、餌づけ誘引実施(2月末までは、餌づけも実施しない)
3月下旬～4月末、週1回程度(計5回程度)捕獲を実施。
- 実施候補地： 道道知床公園羅臼線沿い(北浜～相泊間 約7km:従来の実施区間)
- 個別の課題： 道路法面工事との調整、漁業者等への周知。
- 捕獲目標頭数：20頭（2019(R1)シカ年度流し猟式SS捕獲実績と同等）。

4. 2020シカ年度以降の検討課題

- ・捕獲手法として段丘上林内での忍び猟が候補に挙げられるが、捕獲個体の搬出が困難なことが課題。

C. 幌別-岩尾別地区

第3期計画の管理目標:幌別-岩尾別地区(図3-2-3)の29.08 km²における航空調査によるエゾシカ発見密度を5頭/km²以下にする。

1. 経緯・課題

- ・2019(R1)シカ年度は、小型箱わな(4年目)で8頭、くくりわな(再開2年目)で19頭、岩尾別大型仕切柵(7年目)で5頭、岩尾別での待ち伏せ式誘引狙撃(4年目)で14頭、運動地SSで9頭(2019年6月実施)、合計55頭を捕獲。
- ・2019(R1)シカ年度の航空カウント数は49頭。発見密度は1.7頭/km²(49頭/29.08 km²)となり、前年に続いて第3期管理目標を達成。低コストでシカの低密度状態を維持する段階に移行。
- ・ただし局所的に高密度のエリアが残る。特に同地区西部の幌別(U-06:岩尾別川~幌別川左岸)は観光地(フレペの滝、プユニ岬等)を含むため、大規模な銃捕獲の実施は困難。道路から0.5~1.0km離れた海岸沿いにまとまった越冬群が残っているが、効率よく捕獲するためには捕獲地点までのアクセス方法(スノーモビルの使用など)を検討する必要がある。くくりわなによる捕獲が現実的。
- ・岩尾別右岸(U-06:岩尾別川~知床五湖)は、銃猟を含むこれまでの捕獲作業により低密度を維持する段階に移行。
- ・冬眠明けのヒグマによる攪乱等により、捕獲適期のピーク(3月下旬~4月初旬)に十分な捕獲を実施できていない。箱わなへの警戒心が上昇、メス成獣の捕獲比率が低下。

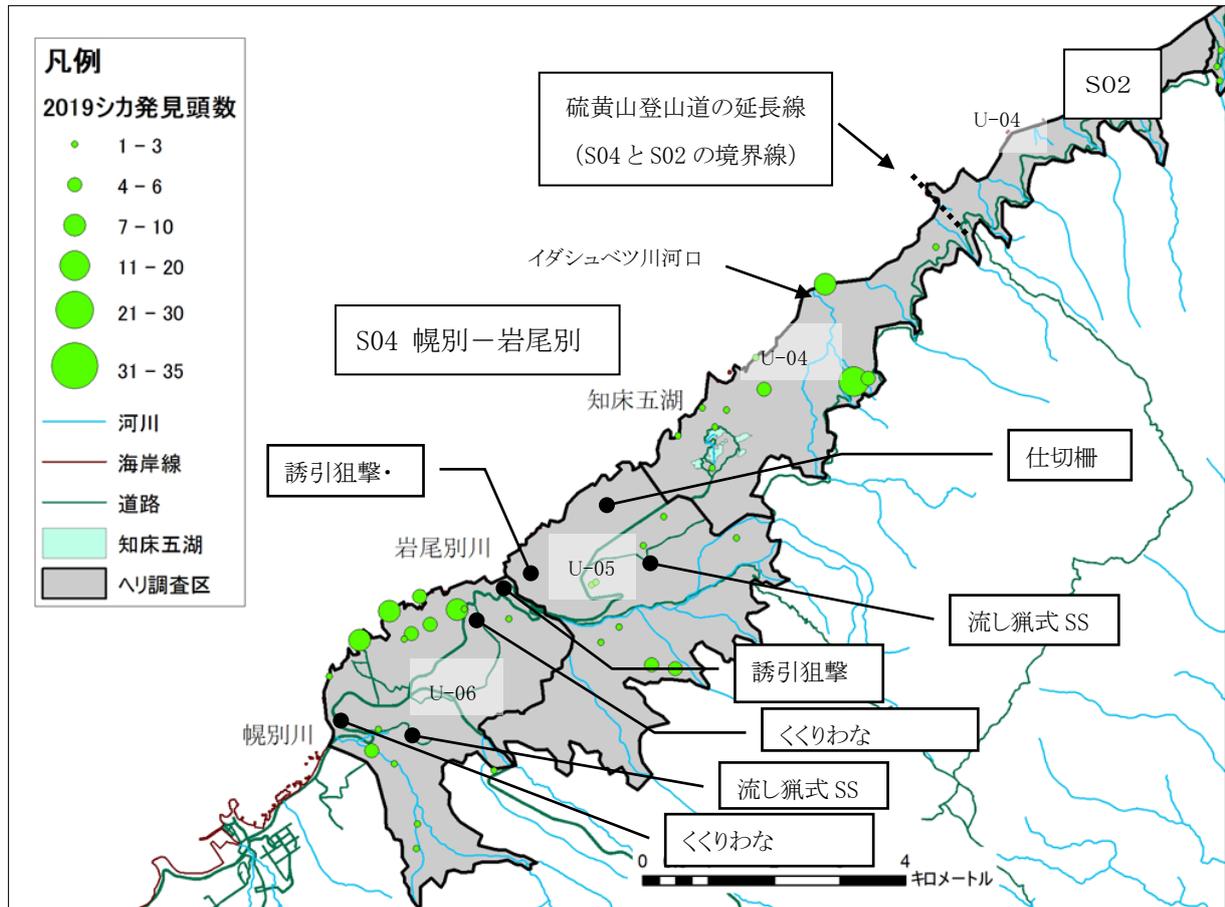


図 3-2-3.幌別-岩尾別地区における2019年航空カウント調査時のエゾシカ発見位置と2019(R1)シカ年度のエゾシカ捕獲実施箇所。航空カウント調査のU04西部、U05、U06の3地点を合わせたものが幌別-岩尾別地区になる(29.08 km²)

2. 方針(案)

岩尾別

- ・岩尾別川河口～右岸台地上に集結する群れの捕獲にひきつづき重点を置く。岩尾別右岸（岩尾別川沿い、台地上）において、待ち伏せ式誘引狙撃（銃猟）を主体とした捕獲を行う。
 - ・捕獲効率の低下から、くくりわなによる捕獲は実施しない。
 - ・五湖側からの移動分散個体を捕獲するため、低労力で運用可能な仕切柵での捕獲を継続する。
- ※実施計画が策定された際は、岩尾別台地上の待ち伏せ式誘引狙撃において日没時銃猟実施を想定。

幌別

- ・くくりわなを主体とした捕獲を実施する。幌別川から知床自然センター間、ポロピナイ周辺に、前年よりくくりわなを増設、20基を設置する。少雪・無雪に対応できるくくりわな（穴を掘る必要のないくくりわな）を導入し、幅広い状況に対応、捕獲効率の改善を図る。
- ・捕獲効率の低下から、箱わなによる捕獲は実施しない。

※捕獲目標頭数合計：60頭

2016(H30)シカ年度以降の航空カウント調査とライトセンサス結果、捕獲頭数実績を基に捕獲目標頭数合計を設定。2016(H30)シカ年度以降、航空カウント調査のヘリ発見密度は5頭以下で推移しており、捕獲目標頭数は2019(R1)捕獲頭数実績と同程度に設定。

3. 捕獲事業内容(案)

①仕切柵を用いた大型囲いわな式捕獲（既設）

- 期間： 1～3月に餌付け・捕獲
- 実施候補地： 岩尾別地区（海岸側ササ地）
- 仕様等： 大面積のササ地を仕切柵で囲い、囲いわなのようにして捕獲。落とし扉は蹴り糸で落下するように加工。メール送信機能付自動カメラを設置し、捕獲を補助。捕獲個体は銃による止め刺し後、死体で搬出。作業にはスノーモビルを使用する。
- 個別の課題： ー
- 捕獲目標頭数：5頭（2019（R1）シカ年度実績と同程度）

②くくりわな（再設置・積雪期）

- 期間： 1～3月に捕獲（20基を設置）
- 実施候補地： 幌別地区（幌別川～知床自然センター・ポロピナイ周辺など）
- 個別の課題： わなの設置位置とアクセスルートの最適化、わな巡回・止め刺し・搬出の省力化、観光利用との住み分け
- 捕獲目標頭数 20頭（2019（R1）シカ年度実績19頭）

③待ち伏せ式誘引狙撃（積雪期）

- 期間： 1～3月下旬（1月上旬から餌付け、捕獲は最大週2回の頻度で10回程度）
- 実施候補地： 岩尾別川河口のふ化場付近、岩尾別台地上の林内・林縁
- 個別の課題： 長時間の待ち伏せによる射手の肉体的負担の軽減
- 捕獲目標頭数：20頭（2019(R1)シカ年度冬期実績から約5割増）

④待ち伏せ式誘引狙撃（残雪期）

- 期間： 4月上～中旬（捕獲は最大週2回程度の頻度、5回程度）
- 実施候補地： 岩尾別台地上
- 個別の課題： 長時間の待ち伏せによる射手の肉体的負担の軽減、冬期通行止め区間の道道に立ち入る利用者等への周知。
- 捕獲目標頭数：5頭（2019(R1)シカ年度実績と同程度）

⑤運動地流し猟式SS（待ち伏せ狙撃・忍び猟）（無積雪期）

- 期間： 6月（捕獲は週2回程度の頻度、6回程度） *2021シカ年度
- 実施候補地： 幌別・岩尾別台地上、しれとこ100平方メートル運動地内の作業道沿い

- 要素： 餌づけ誘引なし、スマートディアの追加発生を可能な範囲で回避するよう配慮、車両を必ずしも利用しない(待ち伏せ狙撃への臨機応変な切替)、道路入口封鎖
- 個別の課題： 低密度を維持する手法としての有効性を検討
- 捕獲目標頭数： 10 頭

4. 2020 シカ年度以降の検討課題

- ・低密度状態を効率的に維持するための捕獲の進め方。
- ・イダシュベツ川河口方面からの移動分散個体の対応。知床五湖周辺で捕獲するには冬期観光利用との調整が必要。
- ・五湖ゲート閉鎖中のイダシュベツ方面での個体数調整の実施
- ・フレペの滝～ポロピナイ間(幌別台地上)の海側崖沿い草原地帯で越冬している群れの捕獲の進め方。
- ・道路や遊歩道沿いで、吹矢や麻酔銃を用いた捕獲。フレペの滝など捕獲圧をかけられないが人慣れした群れに対し、メス成獣を選択的に減らしていくことで群れの繁殖率を下げる。麻酔で捕獲した個体を一時養鹿場に運ぶ方法は、過去にウトロ市街地で実績あり。

表 3-2-1. 2020 (R2) シカ年度 遺産地域内におけるエゾシカ個体数調整事業 (案)

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
			シカ季節移動		← 流氷期 積雪十分に →		← 猛禽繁殖期 →		シカ季節移動	
				← 岩尾別～五湖間道道冬期閉鎖 11月下旬～4月下旬 →						
モニタリング		⇔ スポットライトセンサス (秋期集中)				⇔ 航空カウント調査 (遺産地域内)		⇔ スポットライトセンサス (春期集中)		
A 知床岬	①. 流水期 ヘリ捕獲 (くくりわな、罠いわな) 6名程度、宿泊(3泊)、1回					⇔ 航空カウント後、宿泊捕獲1回 (くくりわな主体+捕獲個体の残置)				
	②. 海明け後 船捕獲 (待ち伏せ狙撃、忍び猟) 3名程度・日帰り、4回程度								⇔ 船捕獲4回程度 (捕獲個体の残置)	
B ルサ・相泊地区	①. くくりわな (相泊-崩浜南部、昆布浜付近、ルサ川左岸 周辺)			← 罠設置		餌付け+捕獲	⇔ ワナ撤去			
	②. 誘引狙撃(待ち伏せ式) (崩浜南部)							⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲(計15回程度)	
	③. 流し猟式SS (北浜-相泊: 道道知床公園羅白線)	⇔ 道路管理者等 関係機関との調整		⇔ シカ 道路法面に散在				⇔ 馴致・餌付け	⇔ 餌付け+捕獲(計5回程度、日没時銃猟)	⇔ シカ 道路法面に集中
C 幌別・岩尾別地区	①. 仕切柵を用いた大型罠いわな式 捕獲 (岩尾別台地)				← 餌付け+捕獲		⇔ シカ海食台地縁、道路法面に集中			
	②. くくりわな (幌別川-知床自然センター、ポロピナイ 周辺)			⇔ ワナ設置	← 餌付け+捕獲	⇔ ワナ撤去				
	③-④. 誘引狙撃(待ち伏せ式) (岩尾別ふ化場通路、岩尾別台地上)				⇔ 馴致・餌付け	← 餌付け+捕獲(最大週2回、計10回程度、日没時銃猟)		⇔ 餌付け+捕獲(最大週2回、計5回、日没時銃猟)		
		⑤. 流し猟式SS (待ち伏せ式、忍び猟) (100平米運動地作業道)								⇔ 捕獲 (最大週2回、計6回頻度)